

135:13 主よ。あなたの御名はとこしえまで、主よ。あなたの呼び名は代々に及びます。

135:14 まことに、主はご自分の民をさばき、そのしもべらをあわれまれます。

135:15 異邦の民の偶像は、銀や金で、人の手のわざです。

135:16 口があっても語れず、目があっても見えません。

135:17 耳があっても聞こえず、また、その口には息がありません。

135:18 これを造る者もこれに信頼する者もみな、これと同じです。

135:19 イスラエルの家よ。主をほめたたえよ。アロンの家よ。主をほめたたえよ。

135:20 レビの家よ。主をほめたたえよ。主を恐れる者よ。主をほめたたえよ。

135:21 ほむべきかな。主。シオンにて。エルサレムに住む方。ハレルヤ。

主を讃えるその動機は、異邦の偶像とは全く違うからです。ある人々は混同しますが、天地宇宙を造られた神と、ただのモノにしか過ぎない偶像とは、正反対と言ってよいほどの違いです。

見ることも聞くこともできない偶像を、なぜ人は造ったり信頼したりするのでしょうか。それは「これと同じ」すなわち、その人も本当の意味で見たり聞いたりできないのです。

私たちは主に感謝すべきです。かつては本当の神を知ることのできなかつた者が、今は神を知り、神と親しく交わることさえできるのです。

エルサレムとは人々の中心地です。そこにいくださるとは何と心強いことでしょう。私たちも、自分自身の生活の中心に、生ける全能の神がいてくださるのだということを忘れないで生きましょう。そしてその事実を歌にするくらい、喜び楽しみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

